

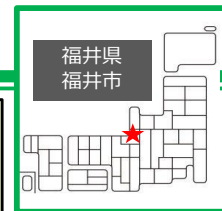


特定非営利活動法人こころ

事業所：就労継続支援A型事業所
「C&Cサービス」

視察受入れ：可

報道機関受入れ：不可



福井県福井市にある「C&Cサービス」は、リハビリが終わった統合失調症やうつ病患者の職業復帰を目的として、平成25年に設立した就労継続支援A型事業所。現在は、精神障がい者約9名が、農園「こころファーム」において、椎茸の菌床栽培や野菜の減農薬又は有機栽培を通常で行うことで障がい者雇用の拡大を図る。また、市内の精神科病院とも連携しリワークプログラムの実施のための、障がい者の受け入れを積極的に実施している。

基本情報

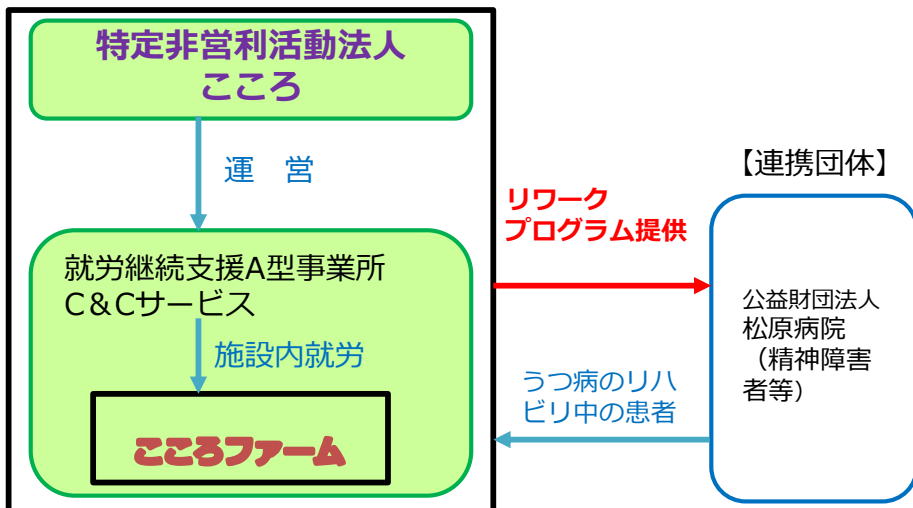
- 所在地：福井県福井市
- 団体名：特定非営利活動法人こころ
- 取組パターン：グループ内連携型
- 選定表彰：－
- 主力商品：椎茸、ほうれん草、こまつな、ベビーリーフ



取組の概要

- ◆ 農園「こころファーム」では、椎茸の菌床栽培や、ほうれん草、こまつな等の生産を農福連携により施設園芸で取り組み、9名の障がい者の就労の場を生んでいる。
- ◆ 主な作業内容は、椎茸の収穫、選別、間引き、クリーニング（菌床棚洗浄、菌床のカビの除去）、葉物野菜の収穫、洗浄作業。
- ◆ 病院や福祉施設での訪問販売。
- ◆ 連携団体である「精神科病院」からのリワーク（復職）を目的としたリハビリのための農業プログラムの実施。
- ◆ 就労支援やリワークプログラムの修了者を支援するため、生産物の買い取り及び販売の請負。
- ◆ ノウフクJAS取得（令和3年）

体制図



取組の成果

- ◆ 全体的な生産量（椎茸・葉物野菜）は、ここ5年間ぐらいで大きく拡大しており、椎茸では約2倍の生産量となっている。また、野菜を含めた全体的な売上額も5倍近くに増加している。
- ◆ 生産量が増加したことにより、連携する就労継続支援B型事業所への作業委託を増やすことができ、作業効率が良くなり生産性も向上している。
- ◆ リワーク（復職）を目的とした農作業のリハビリにより、取り組み当初から21名の復職と2名の就農を実現している。
- ◆ 農福連携に取り組みたい福祉事業所からの視察がふえており、モデル的存在に成りつつある。

所在地▶福井県福井市文京2-10-4

連絡先▶TEL:0776-63-6711 E-mail:cocorofarm5560@gmail.com

ウェブサイト▶－

【取組のプロセス】

農業によるリハビリ、障がい者の雇用拡大を図る。

平成27年

きっかけ

平成25年設立の就労継続支援A型事業所は当初、事業は清掃部門のみであったが平成27年に関係病院が運営していた圃場（ハウス園芸）を引き継いだことにより障がい者が農業を通じてリハビリを行い、さらには障がい者の雇用拡大、農業での収入確保を図りたいと農福連携を開始。

平成28年

（農業拡張期）

- 以前より、精神障害をもつ障がい者が農作業を行うための配慮事項や、訓練ではなく雇用を維持するため、冬季でも継続して通年稼働できる農業の方法等の課題に取り組んできた。
- 平成28年5月、ハウス2棟を拡張し、ほうれん草の増産に取り組む。
- 平成28年10月、坂井市に新たに農地を借り、ベビーリーフなどの栽培に着手。



園芸用ハウス

農山漁村振興交付金活用

平成29～30年

（ハウス倒壊と再生・リワーク受入れ開始）

- 平成29年10月の台風と平成30年1月～2月の大雪でハウスが倒壊。
- 平成30年10月、農山漁村振興交付金により基盤整備、ハウス再建を実施。
- 椎茸菌床栽培開始。
- 関係病院からのリワーク（復職）希望者の受け入れ開始。



椎茸菌床栽培

リワーク開始

令和2年

ノウハウJAS認証取得

（障害者雇用と販売の拡大）

- 現在は9名の障がい者により、椎茸、ほうれん草、こまつなの栽培に取り組む。
- 小売店や病院、福祉施設での販売にも力を入れ、販売額を伸ばしていく。
- 施設整備にコストがかかることから、支援事業の積極的活用。



葉物野菜の作業風景

令和6年

（福祉事業所で作るネットワーク）

- 農福連携に取り組んでいる他の福祉事業と連携して、生産・流通・販売ネットワークが可能となる福祉事業所が運営する農業組合的な組織ができれば良いと考える。
- JGAPの認証を取得し本格的に生産・流通に対応することで、事業の安定化と障がい者雇用の更なる拡大を図る。



企業での訪問販売

今後の展望